

令和3年度「志教育」実践事例

宮城県古川高等学校

1. はじめに

本校では平成28年度より「志教育」の一環として、東日本大震災の被災地を訪れる「被災地研修」を実施している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から中止となったが、本年度は感染症対策を徹底した上で実施した。本報告書では、令和3年5月に実施した「2学年被災地研修」についての実践事例を報告する。

2. 2学年被災地研修の概要

(1) 目的

東日本大震災による大きな被害を受けた被災地の県民として、被災から10年が経過しての状況と復興の現状を視察することで防災意識を向上させるとともに、復興の当事者としての自覚と意欲を高めさせ、将来地域社会に貢献できる生徒の育成に資する。

(2) 実施の背景

東日本大震災から10年が経過し、復興事業が進んでいるとはいえ、沿岸地域を中心にいまだ厳しい状況にある被災地も少なくない。津波による未曾有の被害をもたらした震災および被災した地域の復興の経過などを、自分自身の目や耳で確かめさせたい。将来起こりうる災害にどのように対処していくかを考え、防災に対する意識を高めさせたい。生徒は宮城県出身者として、被災地の現状を踏まえた情報発信や行動の意識を持たせ、自分自身が主体的に防災に取り組むことで、地域社会の発展に貢献できるように、この被災地研修を企画した。

(3) 期 日 令和3年5月26日(水) 8:30~16:30

(4) 内 容 被災地等を巡り、復興の現状や課題、今後について現地で研修する。

(5) 参加人数 2学年6クラス 生徒219名 引率教員13名

(6) 研修場所

1組〔南三陸方面〕

南三陸ポータルセンター・さんさん商店街・荒島神社・海の見える命の森

2組〔石巻・南三陸方面〕

大川小学校・南三陸さんさん商店街・南三陸町旧防災庁舎・南浜つなぐ館

3組〔南三陸・気仙沼方面〕

龍の松・気仙沼市震災遺構伝承館・南三陸さんさん商店街・旧防災庁舎

4組〔南三陸・気仙沼方面〕

震災復興祈念公園・道の駅大谷海岸・気仙沼市震災遺構伝承館

5組〔石巻方面〕

大川小学校・日和山公園・復興まちづくり情報交流館

6組〔女川・石巻・東松島方面〕

女川駅前・まちなか交流館・東松島市震災復興伝承館

(7) 事前・事後研修

①事前研修

各クラスの研修委員が中心となり、津波被災地、復興事業、防災伝承などの下調べをし、研修内容の原案を作成した。LHRの時間に、この原案をもとに各クラスで検討を行い、研修内容を決定した。関係各所への問い合わせ等の手続きも生徒が主体となって行った。

朝自習の時間に、被災体験をした同世代の人が書いた著書の一部を読ませて感想を書かせた。その感想の一部を抜粋してまとめたものを生徒全員に配布し、内容を共有した。

②事後研修

被災地研修直後に生徒に感想を書かせた。また、後日LHRの時間に各クラスのグループごとにレポートを作成させた。朝自習の時間に事前学習で用いた資料の続きを読ませ、今回の研修を踏まえた感想を書かせた。また、事前学習と同様に、生徒が書いた感想の一部を抜粋してまとめたものを全員に配布し、内容を共有した。

(8) 感染症予防対策

- ・研修前2週間の体調確認と当日出発前に学校への検温報告（8時までに検温報告フォームに入力）をする。
- ・各クラスで消毒液・消毒シートを携行する。
- ・昼食は3密を避けて食事をとれる場所を確保し、黙食を行う。
- ・バス内や訪問施設等では、業者・各施設が定める感染防止対策に従う。
- ・研修後の体調確認を行う。

4. おわりに —被災地研修の意義と志教育—

生徒の感想・レポートからは、被災地研修を通じて防災や復興が他人事ではなく、自分たちが主体となって行動していかなければならないと感じたことが見て取れた。社会の中で果たすべき役割を考え、よりよい社会の形成のために主体的に行動することは、志教育の目的とも合致する。この研修は、生徒に「自分たちに何ができるか」「これからどのように地域の復興をなすべきか」を考えさせ、将来地域社会に貢献していかなければならないという「志」を育むものになったと感じている。

